

三島の教育

令和5年度

(2023年度)

三島市教育委員会

ま え が き

新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に直面した3年間は、現在、私たちに必要な学びの環境とはどういうものかを考えるきっかけにもなり、学校現場においても、社会教育においても大きな学びの転換期となりました。

今後は、コロナ禍以前の状況を取り戻すとともに、AI やオンライン等の技術革新を学びの現場でも取り入れ、誰もが、いつでも学び続けられる環境を整えていくとともに、新たな危機に直面した際にも、変化に対応し生きるための力を養っていくため、教育が果たす役割はますます重要なものとなってまいります。当市では令和5年3月に「教育に関する大綱」にも位置付ける「第2期三島市教育振興基本計画」を策定し、「健やかで 幸せな 未来を切り拓く 人づくり」という基本理念のもとに、三島市の教育がさらに充実したものとなるよう、各種施策を進めてまいります。

まず、学校教育につきましては、「子どもが夢と希望を持ち、生涯にわたり学び続ける基盤を培う学校教育の推進」という基本方針のもと、6つの施策の柱を設定しました。学習指導要領の着実な実施とともに、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくために、研究や研修、授業実践を重ねてまいります。また、実現にあたっては、1人1台端末と電子黒板等のICT機器をいっそう効果的に活用し、学びの充実につなげてまいります。こうした取組をとおして、子どもたちが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために、必要な資質・能力を育むことを目指してまいります。

学校施設につきましては、子どもたちが安全・安心に学校生活を送れるよう、建設から年数の経過した校舎の改築を計画的に進め、校舎の長寿命化や段差の解消に取り組んでいくとともに、トイレ改修や、エレベータ設置等のバリアフリー化を実施し、児童生徒はもとより、地域の方々にも使いやすい学校施設となるよう、改修を進めてまいります。

次に、市民の教育活動全般としましては、「生涯を通して、誰もが活躍できる「場」の創出」という基本方針に沿って、教育環境の充実と教育機会の拡張のため、各種講座の再開や充実、図書館活用の促進や、就業後も生涯にわたって学び続けられるよう、リカレント教育環境充実等の支援を進めてまいります。併せて、将来の三島市を担う人材の育成のため、新規事業として、高校生公開討論会等の開催により地域リーダーの育成に力を入れてまいります。

さらに、「郷土愛を育む文化芸術の振興」という基本方針のもと、文化芸術活動を推進するとともに、三島市文化財保存活用地域計画の作成を進め、貴重な郷土の文化資源の保存活用を図る等により、次世代に文化を継承していくとともに、市民が郷土に誇りを持ち、愛する精神の醸成に努めてまいります。

ここに、関係各位のさらなるご理解、ご協力をいただけますよう、この小冊子を取りまとめましたので、ご教示とご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

令和5年7月

三島市教育委員会 教育長 小塚 英幸

目 次

I. 市政のあらまし

1. 位置・地勢・人口…………… 1
2. 沿革…………… 1
3. 財政…………… 2

II. 教育委員会

1. 教育長及び教育委員…………… 3
2. 教育委員会所管組織一覧…………… 3
3. 事務分掌…………… 4

III. 教育に関する大綱

1. 教育に関する大綱…………… 6

IV. 教育財政

1. 令和5年度教育費予算（当初）…………… 8
2. 年度別教育費の執行状況…………… 8
3. 園児・児童・生徒の人口に占める割合…………… 9
4. 園児・児童・生徒1人当たり及び
人口・世帯割の教育費…………… 9

V. 教育施設

1. 学校要覧…………… 10
 - (1) 小学校…………… 10
 - (2) 中学校…………… 10
 - (3) 幼稚園…………… 10
2. 学校施設…………… 12
 - (1) 小学校…………… 12
 - (2) 中学校…………… 12
 - (3) 幼稚園…………… 12
3. その他教育関連施設…………… 14
4. 令和4年度主な学校施設の整備等…………… 14
5. 令和5年度主な学校施設の整備等…………… 14

VI. 学校教育

1. 令和5年度三島市の学校教育…………… 15
2. 遠藤奨学金について…………… 18
3. 令和4年度就学免除・猶予・死亡児童生徒数…………… 19
4. 令和4年度転入・転出児童生徒数…………… 19
5. 令和4年度中学校卒業生の進路…………… 19
6. 令和4年度就学奨励援助…………… 20
7. 令和4年度日本スポーツ振興センター掛け金
及び給付金…………… 20
8. 学校給食…………… 21

VII. 社会教育（生涯学習）

1. 社会教育施策の重点…………… 23
2. 委員会・団体の構成…………… 23
3. 令和5年度の重点事業…………… 23
4. 生涯学習事業…………… 24
5. 生涯学習推進事業…………… 24
6. 家庭教育事業…………… 24
7. 成人教育事業…………… 25
8. 女性団体支援事業…………… 25
9. 青少年対策事業…………… 25
10. 青少年教育事業…………… 27
11. 児童センター事業…………… 29
12. 学校・家庭・地域連携協力推進事業…………… 29

VIII. 文化財

1. 令和5年度の施策の重点…………… 31
2. 文化財保護…………… 31

IX. 社会教育施設

1. 三島市民生涯学習センター…………… 37
2. 図書館…………… 40
3. 公民館…………… 42
 - (1) 中郷公民館…………… 43
 - (2) 坂公民館…………… 44
 - (3) 北上公民館…………… 44
 - (4) 錦田公民館…………… 46
4. 箱根の里…………… 47
5. 郷土資料館…………… 49

I 市政のあらまし

1 位置・地勢・人口

(1) 市役所の位置

東 経	138度55分
北 緯	35度06分
標 高	24.9m

(2) 地 勢

東 西	11.107km
南 北	13.242km
面 積	62.02km ²

2 沿 革

箱根西麓に位置する三島市は、気候・風土など自然条件に恵まれていることから、市内の各所で人々の生活の跡である遺跡を見ることができる。箱根西麓では3万年以上前の石器が発見されており、旧石器・縄文時代の遺跡が多い。また、平野部では弥生時代の遺跡が多く、人々が環境に適した生活をおくっていたことがわかる。

天武天皇の飛鳥時代(680年)に伊豆国の国府が置かれ、奈良時代天平年間には国分寺・国分尼寺が建立されるなど、三島はこの地方の行政・教育文化・交通の要衝であったことがうかがえる。

源頼朝が、挙兵(1180年)に際し戦勝祈願をしたと伝わる三嶋大社は、鎌倉・室町時代、武家の崇敬が篤く、また庶民の信仰をあつめたことで知られている。

戦国時代末期に築城された山中城は、秀吉の小田原攻めの際(1590年)に落城、現在は国指定の史跡公園として整備されている。

三島は徳川時代には幕府直轄の天領となり、170年の間、代官所が置かれていた。東海道とともに繁栄した三島宿は、五十三次の中でも大きな宿場の一つであり、最盛期には78軒の旅籠を数えた。さらに門前町としての性格もあって往時は繁華を極めたという。

幕末の頃、三島には十数校の漢学塾と相当数の寺子屋があった。明治5年(1872年)に学制が施行されると2校の小学校が設置され、翌6年(1873年)には現在の市域で6校を数えるに至ったことは、住民の伝統的な向学心の証であろう。

明治19年(1886年)には君沢田方郡役所が置かれ、明治22年(1889年)市制・町村制の施行により三島町となり、同22年(1889年)、県下で最初の公立幼稚園が三島・静岡・掛川に開園した。

(3) 人 口 (令和5年4月30日現在)

男	52,164人
女	54,453人
計	106,617人
世帯数	49,990世帯

(人口、世帯数には外国人を含む)

大正4年(1915年)3月、三島町立図書館開館。大正8年(1919年)から9年(1920年)に野戦重砲兵連隊が横須賀及び和歌山から三島に移転してきた。昭和9年(1934年)丹那トンネルが開通して三島駅が設置されると、宿場の疲弊により一時沈滞していた街にも活気が戻った。

昭和10年(1935年)北上村を編入、昭和16年(1941年)には錦田村と合併して三島市が誕生した。さらに昭和29年(1954年)には中郷村を編入し総面積62.02km²の市域となり、現在に至っている。

昭和32年(1957年)米国カリフォルニア州のパサディナ市と全国で4番目の姉妹都市縁組を結び、国際化時代の先達として今も着実に交流を続けている。

昭和39年(1964年)三島・沼津地域に計画された石油化学コンビナートの進出を阻止。昭和44年(1969年)新幹線三島駅の開業等による経済圏・生活圏の拡大と相まって人口が急増。さらに、新幹線ひかり号の停車や、平成21年(2009年)7月の東駿河湾環状線一部供用開始、首都圏への直通高速バスの運行開始により、伊豆・北駿の玄関口、交通の結節点として、県東部の中核的都市として発展を続けている。

平成3年(1991年)4月、市制施行50周年を迎え、ニュージーランドのニュープリマス市との姉妹都市縁組を結び、さらに平成9年(1997年)5月には、かねてから交流を重ねてきた中国浙江省麗水市と友好都市縁組を結んだ。

令和3年(2021年)4月には市制80周年を迎え、現在市内には、幼・小・中・高校のほか、大学院大学でもある国立遺伝学研究所をはじめ、日本大学国際関係学部・短期大学部、順天堂大学保健看護学部、放送大学静岡学習センター、佐野美術館等多くの教育文化施設が設置され、市民文化会館や市民生涯学習センターを教養文化の拠点として、せせらぎと緑と活力あふれる幸せ実感都市を目指している。

3 財政

令和5年度一般会計歳入歳出予算（当初）

（単位：千円）

歳入	
費目	予算額
市税	18,164,083
地方譲与税	271,701
利子割交付金	15,000
配当割交付金	105,000
株式等譲渡所得割交付金	110,000
法人事業税交付金	235,000
地方消費税交付金	3,050,000
ゴルフ場利用税交付金	50,000
自動車取得税交付金	1
環境性能割交付金	25,000
地方特例交付金	115,000
地方交付税	2,000,000
交通安全対策特別交付金	22,016
分担金及び負担金	129,975
使用料及び手数料	560,120
国庫支出金	7,511,452
県支出金	3,303,104
財産収入	308,072
寄附金	356,009
繰入金	1,097,626
繰越金	540,000
諸収入	1,093,741
市債	3,417,100
歳入合計	42,480,000

（単位：千円）

歳出	
費目	予算額
議会費	256,412
総務費	4,746,217
民生費	14,931,742
衛生費	4,384,270
労働費	39,244
農林費	396,529
商工費	524,770
土木費	6,769,600
消防費	1,733,460
教育費	4,919,383
災害復旧費	1
公債費	3,748,372
予備費	30,000
歳出合計	42,480,000

